
【今、2人、それから未来】

サトヤレンリ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

【今、2人、それから未来】

【Nコード】

N0203P

【作者名】

サトヤレンリ

【あらすじ】

7月の屋上。オレと同級生のソイツ。

7月の屋上

まだ日射しはそれほどに強くない。

けれど1時間も外に出ていれば肌のジリジリと焼ける音が聞こえた。

「腕が美味しそうに焼けましたね」

最近、仲良くなった同い年のソイツが長袖のワイシャツを捲りあげている所為で剥き出しになったオレの腕を人差し指でつついた。

「いや、あと30分くらいだろ」

「そうですか？」

「まだレアだな」

色白なソイツの肌は紅くもならず、太陽に透けて、その奥の紅い血液さえ覗けそうだった。

「なんだっけ？」

「未来の話」

「ああ、そっか」

ソイツは『未来』を『無』だと言った。

「時間は直線に繋がってないんだよ」

「直線？」

「例えば明日の予定を考えたとしてそれは今からすると未来になるよね？だけどそれは飽くまで予定の未来であって本当の未来じゃない。だから今の直線上に未来はのらない。つまり、未来は『無』以外の何ものでもない」

何だか頭がぐるぐるしそうな内容をソイツは膝を抱えた状態で笑いながら話している。

「未来は存在しない？」

「うん、これ自分論。あ、もう食べ頃じゃない？」

「いや、あと1時間」

「さっきより増えますけど」

陽射しが脇に置いていた冷たい筈のペットボトルを良い具合に温くしてくれた。のど越しはいまいちだ。

「じゃあ、タイムスリップとかあり得ない？」

「あり得ない。未来が存在するならこんな今はとっくにないよ」

「あ、なんか今一番、納得できたかも」

「でしょ？」

「そっか、だから」

「うん」

こんな今、さつさと
無くなれば良いのに

「んーでもオレ、オマエと一緒になら絶望しなかったかも」

最近、仲良くなった同い年のソイツには足首から下が無い。

「本当？」

「うん」

「そっか」

自らこうして無になる事も可能だ。

いつかこの星は消え、誰の前にも本当の無が訪れる事は明らかなのだからそれが早くても遅くても構わないじゃないか。

「オレ、今、オマエとの未来っての想像した」

「うん」

「だからさ、いつかどんな人間も本当の無でしかなくなるだろう？ だけど、だからこそ今度は生きる為に生きる人間になりたい。なんかオマエとならただ、生きることだけ考えて生きていける気がする」

「うん」

7月の屋上

少年は無となった

ただ、

生きる為だけに

生まれる為に

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0203p/>

【今、2人、それから未来】

2010年11月25日05時35分発行